



会議レポート

SAC SIS2003

先進的計算基盤システムシンポジウム2003 (SAC SIS2003: Symposium on Advanced Computing Systems and Infrastructures 2003) の記念すべき第1回目が去る5月28日から3日間にわたって学術総合センターで開催された。本報告では、SAC SIS2003の開催状況を報告する。

並列処理シンポジウム (JSPP: Joint Symposium on Parallel Processing) から SAC SIS へとシンポジウムが発展された第1回目ということもあり、関係者の方々の本シンポジウムへかける意気込みが随所で感じられた。

プログラムは基調講演、一般講演、チュートリアル、招待講演、ポスター発表という内容で構成されていた。一般講演では73件の応募の中から採択された43件の発表が行われ、ポスター発表では29件の発表が行われた。さらに採択論文の中から3件の優秀学生論文が選定されていた。各セッションともレベルの高い発表が行われていたし、発表後の質疑応答時間でも活発な議論が行われていた。初日の午後からは東京大学の萩谷先生による「分子コンピューティング—計算機科学者から見たナノテクノロジーと分子エレクトロニクス—」という基調講演が設けられていた。2日目の午前中には2件のチュートリアルが設けられた。今年度のテーマは、名古屋大学の高田先生による「組み込みシステム開発の現状と課題」と日本IBM(株)の丸山氏による「XMLとWebサービスにおけるセキュリティの最新動向」であった。いずれも近年の情報産業界で研究・開発が盛んに進められつつあるテーマであり、大勢の聴講者でにぎわっていた模様である。招待講演では、HP LabsのTim Kindberg氏が「The Next 700 billion Smart Physical Objects」という題で、ユビキタスコンピューティングに関する講演を行った。講演中のユビキタスコンピューティングが実現する世界を示したイメー

ジビデオは、SF映画を見ているようで興味深いものがあった。

一般の発表内容としては、一般公演の部でグリッドのセッションが2つも設けられていた上、ポスター発表でも29件中20件が何らかのかたちでクラスタやグリッドに関係しており、全体的にクラスタやグリッドに関連する発表が多かったように感じた。パーソナルコンピュータの普及具合などを考えるとそのような計算資源の有効利用は非常に重要な研究であると思うので、今後も活発な研究を期待するところである。ほかに、ネットワーク、オペレーティングシステム、プログラミング言語、設計技術、数値計算、データ管理・処理、プロセッサアーキテクチャなど計算基盤システムに関する幅広い分野のセッションが設けられていた。たくさんの発表の中でも、優秀学生論文賞を受賞した名古屋大学の嶋田氏らによる「パイプラインステージ統合: 将来のモバイルプロセッサのための消費エネルギー削減技術」は同じく低消費電力化プロセッサアーキテクチャを研究している者として非常に刺激を受けた発表であった。

報告者はポスター発表で参加した。ポスター発表は初めての体験だったので、発表時間が始まってポスターを見に人が集まりだしてもどうしてよいか分からず、おろおろしたりしてしまった。しかし時間が経つうちに少しずつ雰囲気にも慣れ、「説明いたしましょうか?」と自分から話しかけられるようになっていった。そしていつの間にか発表時間が終わって次のセッションが始まっていることに気づかないほど説明に熱中していた。初めは戸惑ったポスター発表だが、さまざまな方から有益なコメントを頂戴できたとし、一般講演にはない雰囲気も味わうことができたので参加して非常によかったと感じた。

2日目に行われた懇親会はたくさんあった料理がすぐになくなってしまふほど多くの方が参加されていた。会場では何人かの研究者の方とお話をさせていただくことができ、楽しい時間を過ごすことができた。

報告者は、JSPPには参加したことがなかったのでこのようなシンポジウムへの参加は今回が初めてだったが、刺激的な発表、活発な議論の場に居合わせることで非常に有益な経験をすることができたと思う。来年のSAC SISは北海道で開催されるようである。ぜひとも来年は一般講演で参加できるよう、研究を進めたいものである。

(千代延昭宏/九州工業大学)

